

さるしま junior

第10号（夏一その5）

令和3年7月15日発行

園長 小菅 哲也

「子どもの中で子どもは育つ」を実感する日々

「Aちゃん、みんなと一緒に〇〇しよう」

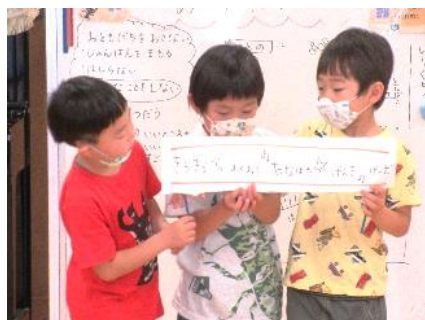
「Bちゃんの誕生会での司会、とってもじょうずだったよ」

「Cちゃん、さっきはぶつかってごめんね」……

子どもたちの間に、友達を気づかったり、友達のよさやがんばりを認めたり、自分から友達にあやまったり…といった、

「周りに目を向けた行動」や「自分で問題を解決しようとする

行動」が、6月の下旬からぐっと増えてきました。と同時に、友達と関わる場面も多く見られるようになってきました。クラスの中に自分の確かな居場所が築かれたからでしょうか、一人ひとりの個性や持ち味もグングン発揮され始めました。



年度当初は、年中児がいないことや人数が少ないこともあって、困ったことがあると教職員に助けを求めたり、遊び相手が見つからないと教職員に遊んでもらったりしていた子どもたちでした。子ども同士のトラブルは少なく、活動も効率的に進んでいくのですが、仲間とのつながりがなかなか生まれてきませんでした。環境に恵まれ過ぎていることは、子どもたちにとって良いことばかりとは限りませ

ん。そこで、5月からは、「手厚く支援する体制」から「見守る体制」へ教職員の関わり方を少しずつ変えていきました。

その結果、日常の活動の中で、うまくいかなかったり、けんかをしたり、失敗したり、負けたり…といった、子どもたちにとって、思い通りに事が運ばないことがたくさん出てきました。しかし、つまずきは乗り越えることで、必ずこれからの大きな力となります。それはまた、「新しい自分」と出会う恰好の機会でもあります。さまざまな試行錯誤を通して、「子どもの中で子どもは育つ」 ことを見事に証明してくれている最近のさくら組の子どもたちです。



幼稚園最後の夏休み。家族のふれあいを大切に！



いよいよ待ちに待った夏休みが近づいてきました。子どもたちは、「48日間」のお休み



に胸を膨らませていることでしょう。小学校、中学校、高等学校…と、わが子が成長するにつれて親子で過ごす時間が減ってしまうのも夏休みです。宿題や部活動で忙しくなったり、アルバイトや友達と遊ぶことに夢中になったりして、お休みどころではなくなってしまうこともしばしばです。

私は、わが子が幼稚園や小学生の時、バスケットボールの指導や審判に明け暮れていました。家族から見れば、夏休みこそ一緒に出かけたり、この時期こそ家族でやりたかったりしたことがあったに違いありません。今でも反省しきりです。

コロナ禍ですが、「今だからこそできること」もあるはずです。家族との関わりや身近なところにある楽しさに目を向けていただけたら…と思います。

少し早起きをして虫を探しに行くのもいいでしょう。一緒に植物を育てるのもいいでしょう。毎朝、家族でラジオ体操をするのもいいでしょう。親子でおやつ作りに挑戦するのもいいでしょう。東京オリンピック・パラリンピックのテレビ観戦も



いいでしょう。遠くへ行かなくてもいい、特別なことをしなくてもいいから、一人ひとりの心の中に、かけがえのない思い出ができることを願っています。それは、10年後、20年後、鮮やかな輝きを放って蘇ることでしょう。



幼稚園は離れていても、心はぐっと近くに 있습니다!

7月6日(火)の午後、楽しい交流を行ってくれた大楠幼稚園へ、子どもたちが心を込めて作った作品(パネル)を届けてきました。大楠幼稚園のプレイルームに入ると、32名のきらきら輝く瞳が迎えてくれました。子どもたちから託されたメッセージを伝えた後、パネルを開くと、「ドラえもんだ!」「ウルトラセブンがいる!」「アンパンマンもいるぞ!」「ぼくもいるかな?」「私はあれかな?」といった歓声に包まれました。「諏訪幼稚園の子はみんな絵が上手だね」「早く会いたいね」「〇〇ちゃんは元気かな?」といった声があちらこちらから沸き上がりました。「ふたつの幼稚園は離れているけど、互いの心はぐっと近くにある」ことを強く感じたひと時でした。10月1日の2回目の交流が待ち遠しい限りです。



※病気やけがに気をつけて有意義な夏休みをお過ごしください。

9月3日(金)、心も体も大きく成長した11名に会えるのを楽しみに楽しみにしています!

みんな、元気だね!
また遊ぼうね!

